

菰野の縄文・弥生文化

先土器文化

1 万年以上、土器を持たなかった時代、無土器文化ともいう、土器だけ用い採集狩猟の生活、火を使用した。日本の前石器時代は3 万年以前（宮城県座散乱木遺跡）。後期石器時代は1 万年～3 万年程まで（群馬県笠懸村岩宿）

縄文文化

2200 年前から一万年程前の時代、明治 10 年、アメリカの動物学者エドワードモース博士が来日、東京の大森貝塚を発掘、縄目の紋の土器を発見、縄文土器の名の起こりとなった。

狩猟

はじめ石槍を使い、弓矢を使うようになった。石槍（有舌尖頭器）・矢（石鏃）。縄文時代は弓と矢と犬の時代ともいえる。鹿、猪、魚、海草、鳥を取った。

料理

木の実を石皿の上へのせ、磨石で砕いて粉にし、土器で火にかけて煮ることもあった。

道具

石斧、石ノミ、石錘、石匙、石皿、磨意思、壺、甕の類。

住居

竪穴住居に住んだ。穴を掘りまわりに柱を立て、屋根を葺く。水はけのよい所を選び、土間の中心に炉を作り火を焚く。半地下式であるので夏は涼しく、冬は暖かい炉があるので寒さがしのげる。炉に土器を掛け煮炊き、焼き物をする。炉の煙で魚の燻製が出来る。一つの家で 4、5 人で住む食料を貯えた。（猿は自分がその場で食べるだけ。人は貯える事を知った。）

村

縄文人の社会は最低 3 家族が集まり一つの村の形を作っていた。

風習

男女とも耳飾と首飾りを付けた。男は腰飾り、女は貝製の腕輪を付けた。死体は屈葬にし、甕棺に入れて葬る。社会上下支配、被支配の格差はなかった。

菰野の縄文遺跡

尾高観音周辺から根の平開拓地にかけて、石器、土器が発見されている。

田光東北山

田口の東方鳥喰の北方の丘陵の畑に遺物が出土した。

千草草里野

朝明川の北岸、矢の根石の呼び名あり、石鏃が出土する。

千草江野

西江野一帯が縄文人の住宅地といわれ、石器、土器が発見されている。殊に江野の矢柄研磨器は特異の出土物である。

竹成高原

竹成、永井、池底の接する高原から有舌尖頭器多数と三頭石斧が出土した。

弥生文化

1700 年前から 2200 年程前の約 500 年間の時代をいう。縄文式土器とは異なる土器が東京都文京区本郷弥生町から発見され、この名がついた。縄文土器より高い温度で焼くこと、縄文土器は煮炊き用の深い鉢と食べ物を盛る浅い鉢が大方であったが、弥生土器は壺、甕、高坏などを作り、貯蔵用のものができた。甕は粘土紐を巻き上げて作っている。一部鉄の刃物を使うようになった。

稲作

前期に九州から名古屋辺りまで稲作が分布した。それより東日本は自然の豊富な食料に恵まれ稲作は進まず、後期になって行われている。稲穂を石包丁でつんだ。反収 6 斗〜7 斗。

弥生遺跡

杉谷、夏至花、黒石原。縄文時代ほど顕著な遺跡は乏しい。

江野遺跡

昭和 44 年 6 月 28 日から 7 月 3 日にかけて西江野に居住する高校生、小山正和、岡村康男の 2 人が開拓地の畑で矢柄研磨器を採集。畑の付近で檜の古木の下から石鏃、搔器、土器の破片を発見、文化庁へ届かれた。東大教授の山内清男氏に聞こえ縄文早期の石器と折り紙を付けられた。当時考古学研究は進まず、まず早期は 2500 年前の説をたて、若手の学会で大論争を巻き起こした。芹沢長介は 12000 年説をたて、その後考古学が進み、放射性炭素測定法により芹沢説が定説となっている。

杉谷遺跡

字高塚から石匙、石斧、叩石、石鑿。字出合、溜尻、不二沢、溜ヶ谷、八坂から石鏃、繊維土器。根の平からは有舌尖頭器を発見している。(千草からも出土している)。杉谷地内から爪形門時、降線文土器、特に尖頭器が発見されている。杉谷では市岡喜兵衛氏が長年この地内を歩いて採集している。その遺物は菰野町図書館郷土資料コーナーに保存されている。